

## 「城の崎にて」の授業実践報告

—— 研修内容の検証にかえて ——

山 崎 真 弓

### 1、はじめに

平成八年四月一日、私は早稲田大学大学院教育学研究科国語教育専攻に特別選考で入学した。

教職について八年、私はようやく自分自身の授業実践について反省する機会が持てるようになった。そこで見えてきたものは、生徒の受動的な授業態度であった。生徒達の表情には、小説を読むことに対する「義務感」ばかりが目立つように見えた。私は、小説の楽しさすら教えられない教師なのか——この思いが入学の契機になった。国語の授業は小説教材ばかりではないが、まず、小説の指導から授業改善を検討しようと考えたのである。

市毛勝雄教授のご指導のもと、最初に気付いたことは「文学鑑賞」と「小説の指導」とは根本的に異なるということだった。文学部出身の私は、生徒に何とか小説の面白さや価値を「教えよう」「伝えよう」とすることに重点を置いてきた。しかし、小説の読み方を教える以前に作品の意義や価値を伝達しても、生徒達

は楽しさを感じることはできない。そこで、『脱文学鑑賞、脱文学研究』を目指して、自分の実践の根本的改善を検討した。生徒達に「小説はこうすれば読める」という手応えを実感させるにはどうしたらよいか。積極的に読書しよう、という気持ちを持たせるにはどうしたらよいか。この二点は、一作品毎に場当たり的に文学鑑賞を行っても、「作品を自由に味わってごらん」といった放任授業を行っても達成されない。短期間の浅博な考察ではあるが、生徒達に小説を読む手応えと楽しさを実感させるための必須指導項目を私なりに整理してみた。それが【資料1】に示す「指導法の基礎項目九カ条」である。

この九カ条は、繰り返し指導することで、生徒達の小説に対する読解力の養成・定着を狙う。年間の授業実践を視野に入れて「系統性のある指導」の指針を提示できれば、と考えて作成したものである。

以下に、この「指導法の基礎項目九カ条」をもとに行った「城の崎にて」の授業の実践報告を行う。実施年度は、私の担当が古

典分野のみであったため、「飛び込み授業」の形で実施したものである。授業計画及び指導案は【資料2】に示す通りである。

## 2、作品選定の理由

「城の崎にて」を教材に選んだ理由は、この作品の内容が「死」を扱う観念的なもので、従来は難解な作品と受け取られがちであったことによる。小説読解の手応えを与えられるかどうか、「指導法の基礎項目九カ条」の有効性を検証するのに適していると判断した。

## 3、実施クラス・実施時間等

### (1) 実施クラス

明治大学付属中野八王子高等学校三年生選択科目「現代文読解演習」履修者五四名

### (2) 実施時間

平成八年十月八日（火） 第四・第五時限

（午後の連続二時間）

平成八年十月十五日（火） 第四・第五時限

### (3) 実施クラスの生徒の状況

高校三年生全クラスから選択者が集まっているが、全員が積極的に当該科目を選択しているわけではない。国語への興味・意欲は通常クラスとほぼ同等である。

## 4、授業にあたって注意した事項等

配当時間が四時間のため、【資料2】に掲げた指導案のうち、第一時限から第四時限までを実施した。従って、発展学習としての読書や意見交換等の時間は割愛した。授業の中心は「中心人物の心理変化の把握」に置く。授業では、九カ条のうち、第一条・第二条・第四条・第五条・第六条・第七条を取り上げ、第三条・第八条・第九条を割愛する。

## 5、使用教科書等

教材は第一学習社『高等学校 国語Ⅰ』（平成七年二月発行）の一六八頁から一七七頁を印刷したプリントを配布した。また、アンケート・ワークシート等を計六枚作成・配布した。その中の二枚（中心人物の心理変化を把握するためのもの）分を【資料3】として一枚に縮小して例示した。

## 6、各時限に関する考察

各時限について、活動項目と考察を示す。（活動の詳細は【資料2】参照）

### (1) 第一時限

#### ① 活動項目

- i 授業の趣旨説明・テキストの配布
- ii 一斉音読による全文通読
- iii 難解語句の意味調べ

## ② 考察

高校では、通読の形態は黙読や指名音読が一般的である。しかし、どちらの形態でも、読み流し・読み落とし等が生じやすい。範読でリードしながら、できるだけ黙読に近いスピードで行う「一斉音読」は、前述の問題点を克服するのに有効である。特にこの方法では漢熟語の読み落としがない。ただし、一切音読はかなりの時間を要する作業なので、部分的実施等、状況に応じて通読方法を柔軟に選択する必要がある。

## (2) 第二時限

### ① 活動項目

i 登場人物の確認。

ii 本分の場面分け及び小見出しつけ。

iii 構成(時代・場所・中心人物の特徴)の確認。

iv 中心人物「自分」の最初と最後の心理の確認。

## ② 考察

今回は、はち・ねずみ・いもりに着目した場面分けを実施した。また、小説の読解で一番重要な項目は「中心人物の変化の把握」であることを確認するために、「自分」が変化していることを確認した。これらの作業は次時への準備作業である。

## (3) 第三時限

### ① 活動項目

i 第三場面について、はちの描写を囲んだ上で、はちの死の特徴と「自分」の気持ちを整理する。

ii iと同様の作業を、第四場面(ねずみの場面)について

行う。

iii iと同様の作業を、第五場面(いもりの場面)について行う。

iv ワークシート【資料3】で「自分」の心理を確認しながらまとめの課題(【資料2】—③の課題16参照。「自分」の心理は変化したか否かを問う課題)を提示する。

## ② 考察

この授業では、はち・ねずみ・いもりの描写を利用して「自分」の心理を追う形態をとった。この作品の特徴は、三つの動物描写が固まって示され、動物描写に連動する形で「自分」の心理が述べられている。描写や表現に関する細かい説明は行わなかったが、描写箇所を枠で囲み、それぞれの描写がどんな「死」を描いているかを考えることで、生徒達は「自分」の心理変化を追うことができた。

## (4) 第四時期

### ① 活動項目

i 前時の活動項目ivに示す課題の考察。

ii 感想文を二百字で書く。【資料2】は一年生を対象として立案したため百字としたが、今回は対象が三年生であるため字数を増やした。どちらも生徒が負担を感じない字数を意識した。

## ② 考察

今回は、実施時間の関係で、【資料2】に示すような「課題の確認」や「感想発表」の時間は設けられなかった。活動項目

i については多数の生徒が「自分」の心理が変化したことを指摘した。例えば、ある生徒は「自分」の心理の変化を次のように整理している。

……前略……（第二場面では）生き物の現実の死をはっきりと目にしていないために「死」を幻想的ないい物ととらえているのに対し、最後では生にいくら執着しても死は突然にやってくるもので、生と死の間には偶然という薄い壁しか存在していないということに気付いたから（心理は変化している）。

△三年女子。括弧内の表現は山崎が補足したもの。

## 7、終わりに

以上が「城の崎にて」の授業実践の概要である。主題に関する話し合いも、表現の細かい検討も活動項目にはないが、作品を大きくとらえることはできたと自負している。以下に、読解に入る以前と第三時限終了後にとったアンケートの推移を掲げる。

◎ 作品に描かれている内容について			
		(読解に入る前) ↓ 第三時限終了後	
よくわかった		3	↓ 6
まあまあわかった		30	↓ 40
あまりよくわからない		17	↓ 3
わからない		1	↓ 1

※ 履修者 五四名中、欠席者及び無回答者を除いて集計した。

この結果からも、「指導法の基礎項目九カ条」は基本的な読解事項の理解には有効であると言えるだろう。今後は、生徒の興味・積極性の喚起の方法について具体的に検討していきたい。

(明治大学中野八王子中学高校／早稲田大学大学院教育学研究科修士課程)

【演習一】指導法の基礎原田九カ条

第1条 道徳○手段は「京言葉を用いる」。

- ① 従来の道徳に限らず大分、道徳性豊かな道徳事項では「京言葉を用いるべき」。
- ② 小説を題材にする場合は、道徳性豊かな道徳事項では「京言葉を用いるべき」。
- ③ 道徳性豊かな道徳事項では「京言葉を用いるべき」。
- ④ 道徳性豊かな道徳事項では「京言葉を用いるべき」。

第2条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

第3条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第4条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第5条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第6条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第7条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第8条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

第9条 道徳性豊かな道徳事項は「道徳性豊かな道徳事項」。

- ① この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ② この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。
- ③ この項目は「道徳性豊かな道徳事項」。

【資料2】-①

萬曆庚申

國語 I (現代國語) 學習指導案

1996年10月8日

日(火)第4限 (1/5)

（原題名）明哲入子付、胸中野入王丁商校 山崎真弓

1. 教材 「塚の崎にて」 志賀直哉
- 指導のねらい
- (1) 「塚の崎にて」は、話の展開に起伏が乏しい、また、中心人物の心理変化がとらえにくい難解な教材として生徒に苦手を覚悟しがちである。描写に着目することによって、明快に中心人物の心理変化を把握する学習活動を提案する。
- (2) 小説の読解に必要な基礎項目を提示することで、生徒に小説を読むことに対する指針と自信を養える。

### 3. 指導計画（全5時間）

時	指導内容
1	(1)全文読誦（一斉音読） (2)難解語と胸へ（各自・フリ）卜使用） (3)登場人物（動物を含む）の確認 【本時】
2	(1)構成の把握。六つの場面に区切る。(2)中心人物の覚悟の把握（第三場面「死に就する覚悟」→第一場面「助かった」）
3	(1)第三場面～第五場面の人物（動物）描写の確認 写の確認 (2)「自分」の心理描
4	(1)感想の発表 (2)新たな視点・問題点の提示
5	発展学習：「真鶴」または「正義演」を読む

注① 児童学習の作品は基本的に同一作家の作品を取り上げる。「真鍮」は心描写が把握しやすく、現行の教科書にも採用されている作品である。「正派」は電車事故を題材に取り上げた作品であり、やはり現行の教科書に採られている。どちらを取り上げるかは、生徒の実態によって適宜判断する。

注② 5.の指導案中の「課題」とは、「確認課題」を指す。

注(2) 5.の指導案中の「課題」とは、「確認課題」を指す。

4. 本時の指導目標
- (1) 全文を通読し、登場人物を確認する。
5. 本時の指導事項
- (1) 全文を通読し、内容（あらすじ）把握する。
- (2) 題解語句の理解を行う。
- (3) 登場人物及び主な人物（＝自分）の描写を行う
- ※ ただし(3)については、主文読解に即ち解説とあわせて行う組成とする。）
- 該当項目：第4章第(1)、(2)……（それぞれ九(九)条の「第一條」、「第二條」を教す（以下、第4段階まで同様に実施する。）

## 5. 本時の指導事項

- (1) 全文を通読し、内容（あらすじ）を把握する

- (2) 難解語句の確認を行う。

- (3) 登場人物及び中心人物（三目方）の確認を行う

※ 本時に取る「指導法の基礎項目（九カ条）」該三項目番号…(1)・(2)・(3)・(4)

「ただし3)については、至々通説同に許可所説とあわせて「何種度とせらる。」  
該当項目番号の(1)、(2)…は、それぞれ九カ条の「第一条」、「第二条」を表す。

(以下、第4時限まで同様に表記する。)

## 6. 本時の指導（第1時限）

指導事項	指 導 内 容	指導上の留意点等
Ⅰ 全文を速読する	1 (指示) 志賀直哉作『灰の峰に』 <sup>1</sup> を読むことを指示する。 2 (指示) 全文を速読し、課題語句等の確認を行う。 3 (指示) 全文を一斉音読で速読する。(音読練習を兼ねる。)	1 作者・作品名等は読解の度に行なう。この作品を『私小説』として強く直読させるのではなく、一個の作品として先入観なく解さるためである。 2 全文を適当な長さで区切りながら、読解・一斉音読の順で指導する。
Ⅱ 難解語句を確認する	4 (指示) 作業プリントを用いて難解語句の意味調べを行う。	4 この作業は、各自の読解を補助する目的で行う。全文速読の時間が短まったりと遅延する可能性がある。作業で時間を調整する。※力の強い者の個別支援も行う。
(15分)	Ⅲ 登場人物・中心人物の確認及び次時の予告 5 (課題) 登場人物を、動物を含めて指摘する。(ただし、作品に直接登場するものに限定する。)	5 (解答例) 自分・はち、車夫・いもり、子・伏見丸・あひる。 6 (解答例) 自分、車夫、はち、車夫・めづる、めづるに数匹、車夫は乳牛、乳牛は仔牛を飼っている。 7 次時へ向けて各自考える機会を持つよう促す。
(5分)	6 (課題) 上記5の登場人物のうち、中心人物は誰かを確認する。 7 (指示・予告) 次時に本文を六場面に分け、作品の構成を確認する。	

## 7. 評價

- (1) 全文を通読し、登場人物を確認することができたか。

【資料 2】②

高等学校 国語Ⅰ（現代国語） 学習指導要領（2／5）

1958年10月8日（火）第5限

（教科）明治大学付属中野八王子高校 山崎真弓

1. 教材 「坂の崎にて」 志賀直哉

2. 指導のねらい  
 「坂の崎にて」は、旅の展開に起伏が著しい、また、中心人物の心理変化がたやすくくみ取れる教材として生徒に受け取られがちな点がある。指導に留意することとして、明快に中心人物の心理変化を把握する学習活動を提案する。  
 (2) 小説の解釈に必要な基礎項目を提示することとして、生徒に小説を読むことに対する指針と自信を与える。

3. 指導計画（当該時限分のみ提示する。全時案の計画は第1時限用指導案参照。）

時	指 導 内 容
1	「1」構図の把握。六つの場面に区切る。(2)中心人物の変容の把握（第二場面）
2	「2」死に対する見し。―第六場面「助かった」

※注意書きは省略。第1時限用時案を参照のこと。

4. 本時の指導目標  
 (1) 作品本文を場面分けし、構図を把握する。

5. 本時の指導事項  
 (1) 本文全体を六つの場面に分け、作品の構図を把握する。  
 (2) 中心人物の変容を把握する。

※ 本時に取り上げる「指導法」の基礎項目九か条「該当項目番号…(5)・(6)の導入

6. 本時の指導（第2時限）

指導事項	指 導 内 容	指導上の留意点等
I 前時の確認及び本時の指針の提示 (5分)	1 (指示) 主要な登場人物及び中心人物を確認する。 2 (指針提示) 本文を六場面に分け、作品の構図を把握する。	2 ワークシートを配布し、ワークシートに沿って確認を進めていく旨を予告する。
II 本文を六場面に分ける	3 (指示) ワークシートに例示された第一・第二場面を逐一音読し、区切れ目と小見出しを確認する。	3 生徒の脱読を避け、4の課題に取り組む指針を示すために、第一・第二・第六場面については、指導者側で区切り方と小見

(IIの続き)

- 4 (課題) 第一・第二・第六場面の区切れ目・小見出しを参考にして、第三・第四・第五場面の区切れ目と小見出しを考える。

出しを明示する。

4 (解答例)

区三 第一・第二・第六場面の区切れ目・小見出しを参考にして、第三・第四・第五場面の区切れ目と小見出しを考える。

5 (解答例)

時代 大正時代  
季節 秋  
場所 坂の崎道長  
特徴 季節感に富んだ静寂  
生活 町民生活

(23分)

- 5 (課題) ワークシートを用いて、時代・季節・場所・中心人物の特徴について確認する。

(13分)

- 6 (課題) 中心人物「自分」は、第二場面の最後には「死に対する覚悟」を感じてゐるが、作品の最後ではどのような気持ちになっているか、確認する。

(5分)

- 7 (指示) ワークシートを見ながら本時の学習事項を確認する。  
8 (予告) 次時は、本時6の課題で確認した中心人物の変容について、心理変化を追いつながら確認していく旨を予告する。

7 ワークシートに記入もれがないように、あわせて確認させる。

7. 評価  
 (1) 作品本文を場面分けし、構図を把握することができたか。

【資料 2】 ③

高等学校 国語Ⅰ（現代国語） 学習指導案 （3 / 5）

1995年10月13日（火）第5限

（発着）明治大学付属中野八王子高校 山崎真弓

1. 教材 「城の崎にて」 志賀重哉

- 指導のねらい
  - 「城の崎にて」は、居の展開に起伏が乏しい、また、中心人物の心理変化がとらえにくい難解な教材として生徒に受け取られがちである。描写に目することによって、明快に中心人物の心理変化を把握する学習態度を提案する
  - 小説の読解に必要な基礎項目を提示することで、生徒に小説を読むことにに対する指針と自信を与える。

3. 指導計画（当該時限分のみ提示する。全時案の直前は第1時限用指導案参照。）

時	指 導 内 容
3	1) 第三場面～第五場面の人物（動物）描写の確認 2) 「自分」の心理描写の確認

※注意書きは省略、第1時限用指導案を参照のこと。

- 本時の指導目標
  - 人物描写及びそれと連動する「自分」の心理を確認する。

5. 本時の指導事項

- 各場面毎に人物（ここでは動物）描写の場所・内容を確認・整理する。
- 「自分」の心理変化は人物描写に連動して引き起こされることを意識させながら、第三～第五場面までの心理を確認・整理する。
- ワークシートを用いながら自分の心理変化を整理する。

※ 本時に取り上げる「指導法の基礎項目九カ条」該当項目番号…(6)

6. 本時の指導（第3時限）

指導事項	指 導 内 容	指導上の留意点等
I 前時の確認及び指針の提示	1 (指示) 六つの場面及び中心人物「自分」の最初・最後の心理を確認する。 2 (指示・指示) 三動物の動物の「死」とそれに対する「自分」の心理を整理する。	1 場面の区切れ目、小見出し及び「自分」の心理（指導計画第2時限参照）を確認する。 2 各動物描写の場所と「自分」が動物の死をどのように受けとめるかを把握するように心がけさせる。
II 第三場面の理解	3 (指示) 第三場面を音読する。 4 (課題) はちの死をくわしく描いている部分はどこか。 5 (課題) はちの死はどのように描かれているか、繰り返して出てくる表現を二つ抜き出す。	3 一斉音読の形式で行う。 4 (解答例) 「ある朝のこと」 ※課題・解答例は別紙を参照。

第三場面の理解の続き（10分）

6 (課題) はちの死の静かさを見た。静かさに親しみを感ずる。

7 (指示) 第四場面を音読する。描いている部分はどこか。該当部分を囲む。

8 (課題) ねずみの死をくわしく描いている部分はどこか。該当部分を囲む。

9 (課題) 逃げようとするねずみの死を静かさにくわしく描いている部分はどこか。該当部分を囲む。

10 (課題) ねずみの死を見た「自分」の気持ちを指摘する

11 (課題) 「自分」は、もしねずみのようなことが起こったとどう思うか。（想像）しているか。

12 (指示) 第五場面を音読する。

13 (課題) いもりの死がくわしく描かれている部分はどこか。

14 (課題) 「自分」はいもりの死をどうとらえているか、いもりの描写以外の部分で繰り返している部分を探し出す。

15 (課題) いもりの死を見た「自分」の気持ちを、音に添うようにする。

16 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

17 (指示) ワークシートを配布する。

18 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

19 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

20 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

21 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

22 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

23 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

24 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

25 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

26 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

27 (課題・指示) 「P117」を見ながら、三つの動物の死を見てきた自分の心理の整理（本時の学習の振り返り）の希望の提示を含む。

6 (解答例) 「自分はその静かさに親しみを感ずる。」

7 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

8 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

9 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

10 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

11 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

12 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

13 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

14 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

15 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

16 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

17 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

18 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

19 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

20 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

21 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

22 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

23 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

24 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

25 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

26 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

27 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」

28 (解答例) 「ねずみは一生懸命に生きていた。」



(現職者) 明治大学付属中野八王子高校 山崎真弓

3. 指導計画（当該時限分のみ提示する。全時案の計画は第1時限用指導案参照。）

※注意書きは省略。第1時限用時案を参照のこと。

- ## 5. 本時の指導事項

- ## 6. 本時の指導（第4時限）

九カ条」該当項目番号は⑨である。

— 61 —

「資料3」 「城の崎にて」 ワークシート③ (第三時間用①)

※「自分」の心理をまとめてみよう

場面	各場面での「自分」の行動・目撃する事柄等	「自分」の心理
1	電車事故→後養生に城崎温泉に来た 秋の美しい山景を散歩しながら けがのことを考える	○寂しい考え、しかし、静かない気持ち ・道い光のことについていた死を身近な ものとして感じた。 ・何かしら を感じた。
2	ははち 生き残るはちと一匹のはちの死骸を比較する はちの死骸は いかにも静かな感じ 寂しい感じ	○はちの死骸を見ることは 寂しかった しかし ○その静かさに親しみを感じた ○ねずみを見て
3	ねずみ 魚くしを首に刺し通されたねずみ、なんとかし て助かうと川の中を逃げる	○今自分にねずみのようなことが起こった どうするだろう ○本能的に生きようとする姿勢 ○もう一度ねずみのような状況が来たらと考 える 静かに死のうともがき苦しんで死のうと それはしかたがない あるがまましかない
4	自分のけがの具合をふり返る 電車事故にあった時 できるだけのことをしようとした(ねずみに近 しいし 死の恐怖はほとんどなかった	

「城の崎にて」 ワークシート④ (第三時間用②)

場面	各場面での「自分」の行動・目撃する事柄等	「自分」の心理
5	いもり 殺すつもりは全くないのに殺してしまった いもりの死と偶然の死 死んだ動物たちと自分のことを考える 死んだ動物たち(はち・ねずみ・いもり) 死ななかった自分はきこうして歩いている	○妙な嫌な気になる ○いもりの身になつてその心持を考える ・かわいそうに思う 同時に をいっしょに感じた ・感謝しなければすめような気も した ・かわいそうに思う ・死ななかった自分はきこうして歩いている ・はち・ねずみの感じはなかった ・(と) (と) (と) ・は両面ではない それはどこに差はない
6	城崎温泉を去る 腎臓力エ六になるのは助かった	助かった ・あらずしを返ることも、 「自分」の気持ちを直す言葉